学校番号	３００４

令和２年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	選択３年
使用教科書	高等学校　数学Ｂ　(第一学習社)						
副教材等	スタディ　数学Ｂ　ＮＥＷ(第一学習社)						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業中は「課題（例題等）を理解する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の流れがあります。しっかりと説明を聞き、考えましょう。
・問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。答えのみを記入するのではなく、途中式や考え方を書くことが大切です。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・定期考査前には、範囲のまとめプリントを配布します。しっかりと復習してください。

２　学習の到達目標

数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b: 数学的な見方や考え方	c: 数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数列またはベクトルに関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的に考えたりすることなどを通して、数列またはベクトルにおける数学的な見方や考え方を身につけている。	数列またはベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	数列またはベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	数列	数列				○	a いろいろな数列に関心をもつとともに、その規則性を表現することのよさを認識し、事象の考察に活用しようとしている。 b 数列の規則性や一般項、和を考察し表現したり、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c 数列の一般項や和を求めたり、数学的帰納法を用いて命題を証明したりすることができる。 d 数列の一般項や和、漸化式、数学的帰納法の基本的な概念、性質を理解し、知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
		等差数列	○		○	○		
		等差数列の和	○		○	○		
		等比数列	○		○	○		
		等比数列の和		○	○	○		
		和の記号Σ		○	○	○		
		いろいろな数列	○	○	○			
	数学的帰納法と漸化式	漸化式	○	○	○			
		数学的帰納法		○	○	○		
2学期	平面上のベクトル	ベクトルの意味	○			○	a ベクトルに関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 b 事象をベクトルを用いて考察し表現したり、思考の過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c 事象をベクトルを用いて表現・処理する仕方や推論する方法などの技能を身につけている。 d ベクトルに関する基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけている。図形と方程式の関係を理解し、基礎的な知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
		ベクトルの加法・減法・実数倍			○	○		
		ベクトルの成分	○		○	○		
		ベクトルの内積		○	○	○		
	ベクトルの応用	位置ベクトル	○	○		○		
		ベクトル方程式	○			○		
3学期	空間におけるベクトル	空間座標	○		○	○		・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
		空間におけるベクトル		○	○	○		
		位置ベクトルと空間の図形	○		○	○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b: 数学的な見方や考え方

c: 数学的な技能　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（教材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。